

元気企業に迫る!

宇佐養魚株式会社

『宇佐養魚』の代表である日高さんは大分市出身。下関市にあ

る水産大学校を卒業後、高知大学大学院農学研究科に進学し

た。その後神戸市の冷凍食品会

社に就職したものの、わずか1年後に独立を決意。かねてから興味があつた水産養殖の事業を立ち上げた。東京・浅草の老舗「駒形どぜう」で味わったどじょうの美味しさに衝撃を受けたことをきっかけに、他に競合がなく国産のものがほとんどないこと、当時大分県がどじょうの無泥による養殖を立てるに。平成15年、日高さんの

挑戦は始まった。

ところが、そこからは困難の連続。昔からどじょうは養殖が難しかったことで知られていたため覚悟はしていたものの、種苗(稚魚)生産や寄生虫駆除などの壁は大きく、周囲から「早くやめた方がいい」という声が上がり、実際、自分自身も「もうやめてしまおうか」と思つたのは一度や二度ではなかつた。しかし、誰も成し遂げて



日本一の品質と生産量!

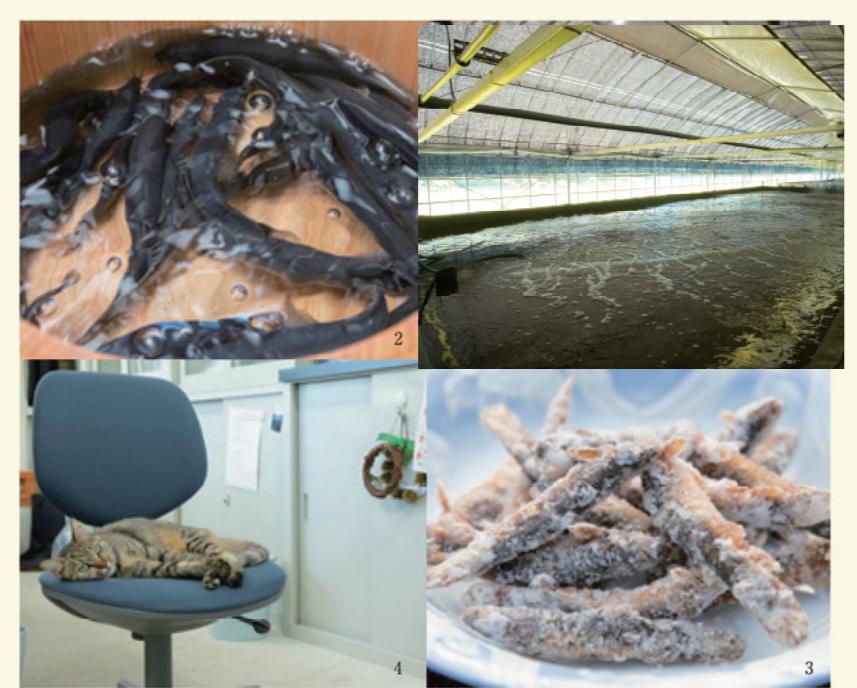
どじょう養殖のスペシャリスト『宇佐養魚』

国産どじょうの生産量日本一が大分県だというのをご存じだろうか。年間生産量はおよそ20~30トン。その半分以上を担っているのが宇佐市院内にある『宇佐養魚』だ。生産量・質ともに日本一と評される、どじょう養殖のスペシャリストである日高暁彦さんに、お話を伺った。

いなどじょう養殖で日本一になりたいという思いをバネに、課題に取り組み続けていたある日、稚魚の餌である動物プランクトン「ワムシ」を安定培養する技術開発に成功。寄生虫に関する野生のネズミが持ち込むのだと判明。猫を飼つてみたところビニールハウスの周辺からネズミの姿が消え、病気の発生予防に大きな効果があつた。こうした独自の技術開発と、大分県が開発した無泥による養殖技術を発展させる

ことで、起業から10年ほどで生産量は飛躍的に増加。今では県全体の年間生産量の半分以上である、およそ15トンを生産するまでになつた。量だけでなく質の高さにも定評があり、「駒形どぜう」や、どじょうのかば焼きが名物の金沢など、各地のどじょう料理専門店から、「身が太く柔らかく泥臭さもない日本一の品質のどじょう」として絶賛されている。

糸余曲折を経て、誰も参入していない未開拓市場(ブルーオーシャン)で成功できたのは、日高さんの技術開発への情熱はもちろん、周囲のサポートもあってこそ。稚魚や技術を提供してくれた県の水産試験場をはじめ、起業当時のまだ若く実績もなかつた日高さんへ、親身な経営指導を行つてくれた地元の商工会、日高さんのどじょうを認めて直接取引するだけなく老舗ならではのアドバイスをくれた「駒形どぜう」、そして、大学時代からいつも笑顔で支え続けてくれた妻の愛さん……。日高さんは現状に満足することなく、加工品の開発や数年前から取り組んでいるなますの養殖で「経営革新計画」の承認を受けるなど、新たな挑戦を続けている。これからもその情熱と人柄で、さらなる成長を遂げることだろう。



1.かつては身近な食材で貴重なタンパク源だったどじょうも、環境の変化で国産の数が減少、消費する文化も廃れていった
2.どじょうは栄養価が高く、漢方薬に使われることも
3.からあげにして丸ごと食してもおいしい
4.猫の「モモ」のおかげで、寄生虫を持ち込むネズミの駆除に成功



「大変な思いもしたけど、田舎が好きなので楽しみながら頑張れた」と妻の愛さん

宇佐養魚株式会社

宇佐市院内町月俣45番地
TEL.0978-34-3857
営業時間 8:00~17:00
休日・日、祝



問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112番地の1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382

元気企業に迫る！ 安心院・院内エリアの

株式会社 粉工房うさ



1. 宇佐クロダマルの焙煎は直火焙煎機を使って末松さんが行う
2. クロダマル商品以外に末松さんが開発した粉もの商品の数々
3. さやに入った枝豆の段階では通常の大豆とほぼ同じ見た目の黒大豆。
中の豆が徐々に黒みを帯び、11月下旬ごろ収穫の時を迎える
4. つややかな黒光りを放つクロダマル。特長を最大限に活かしたい



宇佐クロダマルの畑の前で末松さん。
国内外の展示会や商談会に飛び回る日々だ

作りの傍らで小麦を製粉して商品化するほか、専門業者に製造を委託して米粉、きな粉、うどん、やせうま、米粉うどん、米粉焼きそば、米粉フェットチーネ、ポン菓子（せんべい、おこし）、いろいろなど、さまざまな「粉もの商品」を開発してきた。

3年ほど前、市内で収穫された宇佐クロダマルを営農組合を通じて買い付けて販売したが「インパクト」が足りないと感じた。そこで発案したのが「宇佐クロダマルきな粉

羊羹」だ。クロダマルで作るきな粉は香り高く、ようかんに練り込むと口に含んだ瞬間にきな粉の風味が広がる。そんな特有の味と香りを生かそうと試行錯誤を重ね、個食タイプのようかんとして商品化した。さらにデザインを刷新し、土産用5個入りケースも完成するなど商品の魅力を向上させることにも常に取り組んでいる。また、直火焙煎したクロダマルを粉碎してティーバッグに詰めた「黒大豆茶」



黒大豆の新ブランド 「宇佐クロダマル」を安心院から発信

甘みが強くモチモチとした食感を持つ黒大豆の新品種「クロダマル」。その一大産地である宇佐でクロダマルを使った新しい土産品が次々に誕生している。仕掛け人の一人、末松昭次さんにその思いを伺った。

宇佐は古くから米や麦、大豆など穀物の栽培が盛んだ。そうした土地柄を生かして市では平成21年から黒大豆の新品種「クロダマル」の栽培を九州で初めて導入し、今では全国でトップクラスの作付面積を誇る一大産地に成長した。「宇佐産のクロダマルは『宇佐クロダマル』と呼ばれ、地域の新しいブランドとして期待されています。これを使って、地元の手でオリジナルの観光土産品をつくりたいと考えました」と話すのは、安心院町にある「株式会社 粉工房うさ」の代表取締役、末松昭次さんだ。

黒大豆といえば関西産の高級品「丹波黒大豆」が有名だが、クロダマルはそれを暖地向けに品種改良したもの。表面に光沢があり、苦みが少なく甘みが強い。目の機能改善によいとされる天然色素アントシアニンの含有量も高く、食物繊維が多いためモチモチとした食感が楽しめ煮崩れもしにくい。

生まれも育ちも安心院という末松さん。会社員としての東京で食器販売業に携わった後、大分に帰つて食品流通業や半導体関連業に従事した。父親の他界を機に安心院に帰郷し、会社員をしながら家業の農業を引き継いだ。そして10年ほど前に会社を退職し、米



株式会社 粉工房うさ

宇佐市安心院町尾立22-2
TEL.0978-48-2235



問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112番地の1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382

元気企業に迫る！

有限公司
中莊製畧



“良い畳”の魅力を発信
安心院で畳のショールームをオープン

安心院の地で生まれ、地域に育てられて63年。畳の製造販売会社『中荘製畳』は良質な商品を適正価格で提供し、信頼を得てきた。このたび業界でも珍しいショールームをオープンさせたことで注目を集めている。2代目社長の中荘浩次さんにお話を伺った。

安心院の中心部から国道500号を別府方面に進むと、「畳」と大きく書かれた鮮やかな看板が目に飛び込んでくる。創業昭和32年。この地で畳、ふすま、障子、網戸に関する発注に丁寧に応じ続けている『中荘製畠』だ。昨年11月末、看板を新調するとともに、業界では珍しいショールームを開いた。「今まで見本帳の入ったバッグ一つでお客さまへの商品説明を行つてきましたが、なかなか伝わりにくい部分がありました。ショールームにお越しいただければ多種多様な畳のサンプルに実際に触れながらご説明できます。』と話すのは、社長の中荘浩次さんだ。



1. 工場奥には地元農家から集められた稻わらが、数十年分も貯蔵されている

長時間寝かせて乾燥するほど良質の「わら床」になる

- 40年以上経験を積んだ熟練の職人が大きな機械を使って、畳の張り替え作業を行う
- 『中荘製畠』では畳のはか、ふすま、障子、網戸も扱っている
- 畳を彩る縁(へり)も多様な色やデザインの見本がそろう

り替えの作業が日々行われている。

近年、畳に使われるい草は中国産が大半を占めるようになつた。国内のい草農家は激減し、国産全体のはわずか1割程度というのが現状だ。しかし中国産には農薬や着色料が使われることが多く、見た目はきれいでも残留農薬のある可能性が高い。一方、国産は価格は高めでも残留農薬などの検査がきちんと行われ、品質面では安心だ。

『中莊製畳』では、い草の生産量日本一で知られる熊本県八代市に社長自ら足を運び、い草農家や現地の間屋と直接取引をして良質の国産畳表を仕入れている。最高級のブランド畳にはい草生産者のラベルを貼り、ショールームで手に取つて品質を確かめられる。畳の土台となる「畠床」は、稻わらを5層に重ねて作る「わら床」が昔ながらの製法だが、昨今はポリスチレンフォームや木質纖維を



2代目社長の中荘さん。二男一女の父として、次世代への技術継承も気になるところだ

使った「建材床」や「化学床」が主流だ。そんな中、『中荘製畳』では、今も注文に応じて「わら床」を作り続けている。今や貴重となつた、「わら床」の畳はクッション性、吸湿性に優れ、重宝されている。

伝統的な製造法を大切に守り続けるのはもちろん、時代とともに畳の使用範囲が広がっていることにも敏感だ。特殊素材を駆使し浴室やペット用としても使える「洗える畳」など、新感覚の商品も二一ノズに合わせて提案している。「今回、宇佐両院商工会には事業計画策定支援から事業継承補助金の採択まで支援いただくことでショールームをオープンすることができます。これからもお客様にご満足いただける地域一番店をつくりたい」と、中荘社長は快活に語ってくれた。



有限会社 中莊製畳

宇佐市安心院町莊586
TEL.0978-44-0325
 0120-440-789



(問) 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112番地の1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382